

令和4年6月21日

八戸市議会  
議長 寺 地 則 行 様

八戸市議会議会運営委員会  
委員長 工 藤 悠 平

### 調査視察実施報告書

本委員会は、次のとおり委員を派遣し、調査視察を実施したので、行政視察等実施要領第2（3）の規定により報告します。

- 1 日 時 令和4年4月25日（月）10：00～12：00
- 2 視 察 先 東京都町田市議会
- 3 調査事項 議会改革の取組について、高校生と市議会議員の意見交換会について
- 4 調査結果概要 別紙のとおり
- 5 派遣委員 山之内 悠、中村 益則、吉田 洸龍、高橋 貴之、  
岡田 英、高山 元延、田端 文明、工藤 悠平、  
小屋敷 孝、冷水 保、山名 文世

## 調査結果概要

- 視 察 先 東京都町田市議会
- 日 時 令和4年4月25日(月) 10:00～12:00
- 対 応 者 町田市議会事務局 局長 鈴木秀行様  
議事担当課長 水元友朗様  
ほか担当職員
- 調査事項 議会改革の取組について  
高校生と市議会議員の意見交換会について

### 1 議会改革の取組について

- (1) 傍聴規則の傍聴人受付簿の廃止(平成10年11月18日定例会から)
- ・ 本会議傍聴規則及び委員会傍聴規則の傍聴人受付簿を廃止し、傍聴券の交付のみとし、傍聴者が傍聴に来やすくまた、傍聴者の個人情報保護にも配慮するようにする。
- (2) 議員定数の削減(平成12年12月22日可決)
- ア 議員定数「40人」を「36人」に改める。
- イ 次の一般選挙から適用(平成14年3月9日)
- (3) 行政視察において、全委員が報告文を作成(平成13年6月1日可決)
- ・ 委員会の行政視察において、委員の報告文を行政視察報告書に添付することを決定する。
- [町田市議会の改革に関する調査特別委員会 平成13年2月16日]
- (4) ホームページの開設(平成13年12月1日開始)
- [町田市議会の改革に関する調査特別委員会 平成13年5月7日]
- (5) 会議規則での欠席の届出を具体的に明記(平成14年12月20日可決)
- ・ 本会議の欠席及び委員会の欠席について、会議規則では欠席の届出を「事故のため」と規定しているが、これを具体化するために「疾病、看護、介護、出産その他の事故のため」に改正する。
- [議会運営委員会 平成14年12月2日]
- (6) 会議規則での欠席の届出に「育児」を加える(平成20年2月27日可決)
- ・ 本会議の欠席及び委員会の欠席について、会議規則では欠席の届出を「疾病、看護、介護、出産その他の事故のため」と規定しているが、これに「育児」を加える。
- (7) 会議規則での欠席の届出に「配偶者の出産補助」等を加え、産前産後の欠席期間を明記(令和3年12月9日議会運営委員会決定、令和3年12月22日可決)

- ・ 本会議の欠席及び委員会の欠席について、全国市議会議長会の標準会議規則改正に合わせて改正。会議規則では既に欠席の届出を「疾病、看護、介護、出産その他の事故のため」と規定しているが、「疾病、看護、介護、配偶者の出産補助、育児、公務その他のやむを得ない事由のため」に改正。また、産前産後の欠席期間を、「出産の前後を通じ16週間（多胎妊娠の場合にあっては、24週間）の範囲内」として追加した。
- (8) 一般質問を1時間（答弁含む）へ（平成15年6月定例会から）
  - ・ 一般質問の質問時間を議員一人当たり40分（答弁含まず）から議員一人当たり1時間（答弁含む）へ改正する。
- (9) 新庁舎より、常任・特別委員会のインターネット中継を行うことを決定（平成22年8月25日、議会運営委員会、平成24年9月定例会から開始）
  - ※休憩時の配信映像
- (10) 各常任委員会による市民団体等との懇談会を活発化させる。
  - 平成22年で6団体、平成23年で6団体、平成24年で5団体、平成25年で5団体、平成26年で5団体、平成27年で5団体、平成28年で4団体、平成29年で4団体、平成30年で7団体、平成31年・令和元年で6団体
- (11) 一般質問の開催日数を4日間から5日間にするのを、試行する。
  - （平成24年4月16日、議会運営委員会）
  - ・ 平成24年9月定例会から、一般質問の開催日数を4日間から5日間にするのを試行する。これは、一般質問の通告者が毎定例会30名を超え、4日間では対応できなくなったことから、1日増やし5日間としたものである。
- (12) 一般質問の開催日数を4日間から5日間にするのを、決定する。
  - （平成25年7月18日、議会運営委員会）
  - ・ 平成25年9月定例会から一般質問の開催日数を5日間にする、ことを決定する。これは、平成24年9月定例会から試行されていたものである。
- (13) 決算認定については、特別委員会ではなく各常任委員会で審査することを、平成28年度において試行する。
  - （平成27年10月20日議会運営委員会決定、11月20日本会議報告）
  - ・ 決算認定については、平成28年度において、各常任委員会単位で審査することを試行することと決定する。
- (14) 決算認定については、特別委員会ではなく各常任委員会で審査することを決定する。
  - （平成28年11月22日議会運営委員会決定、12月22日本会議報告）
  - ・ 決算認定については、平成29年度から各常任委員会で審査することを決定した。
- (15) ホームページ上に「議案のカルテ」を掲載（平成23年10月議長決定）
  - ・ いち早く市民に議会の審議・審査内容を報告するために、ホームページ上に

「議会のカルテ」を掲載する。委員会提出議案、議員提出議案、市長提出議案、請願、陳情の番号等から、委員会審査の質疑・応答や討論内容をはじめ、委員会審査結果、議決結果、議案の内容にいたるまでわかるように掲載している。

(16) 「市議会を開きます」ポスターを民間路線バスにも無料で掲出を開始  
(平成27年第2回定例会から)

- ・ 「市議会を開きます」ポスターを、市内の民間路線バスにも、無料で掲出を開始した。ポスターを掲出してもらえる民間路線バス会社及び掲出枚数は、神奈川中央交通(株)が100台分、小田急バス(株)が70台分となっている。
- ・ 平成22年9月定例会から市議会定例会・委員会等の傍聴やインターネットを見てもらうことを目的とし、「市議会を開きます」ポスターを、市民バス「まちっこ」に掲出していたが、新たにコミュニティーバス「玉ちゃんバス」と「かわせみ号」にも掲出を開始した。

(平成28年第2回定例会から)

- ・ 平成28年4月1日から、市庁舎1階ワンストップロビーに多言語対応案内パネルが設置されたため、そのなかの庁舎施設案内モニターにも、市議会開催や傍聴の呼び掛けについて掲載を開始した。

(17) 町田市議会 Twitter を開始 (平成29年3月7日議会運営委員会報告)

- ・ 町田市議会 Twitter の運用を平成29年3月1日から開始した。
- ・ 議会の審議内容や進捗状況・結果及び議会だよりの発行や会議録の公開等について発信。

## 2 高校生と市議会議員の意見交換会について

(1) 高校生と町田市議会議員の意見交換会を開催

(平成29年9月29日議会運営委員会決定、9月29日本会議報告)

- ・ 議会だよりの編集小委員会が担当となり、計19回の議論を重ね、高校生との意見交換会を、平成29年11月11日に初めて開催した。当日は、高校生11名(町田高校、町田工業高校、町田総合高校の3校)が参加し、3グループに分かれ、議員を交えて、「町田をどう創る」をテーマにワークショップを行い、活発な議論を交わした。その後、本会議場で各グループがワークショップの成果を発表した。

(2) 第2回高校生と町田市議会議員の意見交換会を開催。

(平成30年4月18日、6月7日議会運営委員会決定)

- ・ 平成30年11月10日に開催し、高校生27名(市内都立高校6校)の参加があり、6グループに分かれ議員12名で対応した。昨年の2倍以上の規模となった。

(3) 第3回高校生と町田市議会議員の意見交換会を開催

(平成31年4月19日議会運営委員会決定)

- ・ 令和元年11月9日にワールドカフェ方式で開催し、高校生25名(市内都

立高校5校、私立高校2校)の参加があり、6グループに分かれ議員15名で対応した。

第1ラウンドは「若者が過ごしやすいまちは」について、第2ラウンドは「どうしたら若者が投票するか」について、お菓子や飲み物を手に取り、ざっくばらんに意見を出し合い、付箋などを活用して議論を深めた。また、各ラウンドで市議会議員への質疑応答も行った。また、第2ラウンド終了後は各グループの代表者が感想を発表した。その後、議場へ移動し電子表決の体験と記念撮影を行った。

#### (4) 第4回高校生と町田市議会議員の意見交換会を開催

(令和3年6月7日議会運営委員会決定)

- 令和3年11月14日にワールドカフェ方式で開催し、高校生43名(市内都立高校7校、私立高校2校)の参加があり、議員20名で対応した。

9グループ(来庁による参加7グループ、オンラインによる参加2グループ)に分かれ、第1ラウンドは「コロナでどう変わった?~これまで、そしてこれから~」について、第2ラウンドは「町田ってどう思う?~これまで、そしてこれから~」について、ざっくばらんに意見を出し合い、議論を深めた。また、第2ラウンド終了後は各グループの代表者が感想を発表した。その後、議場へ移動し電子表決の体験と記念撮影を行った。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、オンラインでの参加を併用し、来庁による参加グループは、ソーシャルディスタンスを保てるよう3会場に分かれての開催となった。ただし、オンライン参加校を含めた全9拠点(3校・5会議室・議場)をオンラインでつなぎ、一体となって実施した。

### ○委員の所感

- 議会独自のホームページの運用及びSNSの活用など、特に若い世代を意識したタイムリーな情報発信や、ハイブリッド形式での高校生を対象とした意見交換会と議場見学の取組みについて先進事例として大変参考になった。
- 町田市議会の議会改革への取組姿勢にはとても感銘を受けた。八戸市議会としても、まだまだやれることがあると感じている。  
また、高校生との意見交換会に関しても、とても参考となる事例を学ぶことができ、今後、議会ふれあいミーティングのバージョンアップに生かしていきたいと考えている。
- 高校生との意見交換会について、実際に議場を活用して行っていたことは、高校生が実際に議場の雰囲気を知ることができ、高校生に対して、議会への興味関心をより一層引き出せる取組であると思われるので、当市でも参考にしていきたいと感じた。
- 高校生との意見交換会については、広告媒体、チラシなど参考になった。議場を活用したイベントや発表など今後、当市でも取り組んでいきたい。

- ・ 議会改革については、各常任委員会による各団体との懇談会の取組は当市でも予定があり参考になった。団体の選定、意見、要望の対応、まとめ方など市議会に関心があるかの市民調査を実施した結果を基に改革につなげている点は当市でも必要と考える。
- ・ 高校生との意見交換会について、今後検討してもいいのではないかと。若い人たちの意見、要望を議員が直接聞けるという場はあまりないので。町田市のように、ワークショップ形式にして、意見の出しやすいリラックスした雰囲気のなかで行えれば良い。
- ・ 一般質問の通告者が毎定例会で30名を超え2013年9月定例会から開催日程を5日間に増やしたことは住民代表の議員としての積極姿勢が感じられるし、さらに充実した議会運営が可能となり、当市議会の参考に資するものとする。
- ・ 議会改革度5位の町田市ではこれまで、様々な機会を使い議会と市民との距離を縮めることに努めてきている。議会では、8割以上の議員が毎定例会に質問通告をし、一般質問の日数を4日から5日に増やしたとの説明を受けた。議会改革は、議会と市民との距離をいかに縮めるのか、議会での議論活性化を高めるためにどのような取組をしていくのかが、今後の改革の方向だと学び市民の思いにこたえることとの思いを持った。
- ・ 今般の八戸市議会行政視察のテーマの1つは、町田市議会による「高校生と市議会議員の意見交換会」であった。

同市議会にあっては、その取組を現在まで計4回実施しており、第1回、第2回目はワークショップ形式にて、議員2名と高校生4名程度のグループで構成し、参加高校生は市内各校から応募してきた生徒たちという。

1、2回目の反省点は各グループで最後に発表することから、肝心の話合い、意見交換がざっくりばらんとなって、よくできなかったというのである。

このことから、第3回目からはワールドカフェ方式に変更し、グループ構成は同じではあるが、第1ラウンドと第2ラウンドと時間分けをし、意見交換に集中させたという。

そして第1ラウンド終了後の休憩時に、第2ラウンドの議員と高校生の組合せも変えて、違うメンバーで意見交換するというのである。

私が着目したのは、「各グループでの最後の成果発表はしない。」ということであった。

それは第1、第2ラウンドでメンバーを変更しながら、各ラウンドともに意見交換だけに集中して、議員や皆と話す楽しさ、話に熱中し、「話に花を咲かせる」方式としたとのことである。

私自身も今まで経験してきたKJ法やBS法によるワークショップ形式においては、付箋に意見を書いたり、また書記が意見をまとめたりと、意見を皆が出して話すことより、意見を集約して発表し、お互いが成果を共有することであった。

ところが「それはしない」というのだから、私にとっては、まさに「目からウロコが落ちた」のである。

高校生が議員と共に話し合う、話を聞いてもらう、悩みや不安もお互いに理解し合う、という意見を交換しながらの「心の交流」なのだ。

私は、この議員と高校生がそれこそアトランダムにディスカッションし、議員のことを知ってもらう、議員の方も高校生という住民のことを知る、そしてそこから導き出されたものを議員自身がまとめ、議会や行政に反映させるということの方が、目指すべき「議会ふれあいミーティング」の姿ではないだろうか。

八戸市議会の議会報告会としても、大いに参考にすべきであると感じた。

以 上

視察写真

